



# 日本スーパーマーケット協会

## 平成24年2月 マンスリー レポート

集計企業数 60 社

### ① 売上高・前年同月比

	全 店			既 存 店	
	売上高	構成比(前月)	前年同月比(前月)	売上高	前年同月比(前月)
総 額	44,592,061 万円	100.0%	103.2% (101.2%)	42,070,181 万円	100.3% (98.1%)
食 料 品	37,520,541 万円	84.1% (81.5%)	103.5% (101.3%)	35,353,200 万円	100.4% (98.2%)
農 産	5,671,028 万円	12.7% (12.1%)	105.4% (102.9%)	5,361,293 万円	102.5% (100.0%)
水 産	3,726,026 万円	8.3% (8.7%)	101.0% (100.1%)	3,515,145 万円	98.1% (97.2%)
畜 産	4,297,603 万円	9.6% (9.7%)	102.7% (100.1%)	4,056,511 万円	99.7% (97.0%)
惣 菜	3,909,674 万円	8.8% (8.8%)	104.6% (103.3%)	3,683,358 万円	101.2% (100.0%)
日配食品	8,335,438 万円	18.7% (17.7%)	104.3% (101.6%)	7,772,737 万円	101.1% (97.9%)
加工食品	11,580,772 万円	26.0% (24.5%)	102.7% (100.6%)	10,964,156 万円	99.7% (97.8%)
生活関連	3,075,509 万円	6.9% (7.4%)	100.8% (97.6%)	2,945,536 万円	98.7% (95.9%)
衣 料 品	1,389,360 万円	3.1% (4.3%)	100.7% (97.6%)	1,338,508 万円	100.0% (96.9%)
そ の 他	2,606,651 万円	5.9% (6.8%)	103.5% (105.6%)	2,432,937 万円	100.5% (100.6%)

### ② 数 値

全店総売上高	44,592,061 万円	店 舗 数	4,173 店舗
総売場面積	7,926,391.3 m <sup>2</sup>	総従業員数	223,116 人

店舗平均月商	10,685.9 万円	平均客単価 (前年同月比)	1,826 円 (98.4%)
月間m <sup>2</sup> 売上(前月)	5.6 万円 (6.0 万円)	平均店舗面積	1,899.4 m <sup>2</sup>
月間坪売上(前月)	18.6 万円 (19.9 万円)	パート比率(前月)	76.9% (76.9%)

注) 総従業員数…パート・アルバイト数は、8時間換算しています

## 《 全体概況 》

- ・例年になく冷え込み降雪も多く、天候に左右された月であった。うるう年の営業日1日分を活かせなかった。夕刻以降の客数減が大きかった
- ・2月は、恵方巻、バレンタインデーと二つの大きな催事では、しっかりと売上を確保できた
- ・消費税、年金、電力、放射能問題等、生活に不安要素が多く、景気回復への兆しが見えないことも消費が上向かない原因である

## 《 商品動向 》

### ○ 農産

- ・野菜は、サラダ類が好調であった。相場高の中で、キャベツ、きゅうり、レタス、ブロッコリーが伸びた。
- ・1月に引き続き、じゃがいも、にんじん、たまねぎが相場安の影響を受け、販売点数は伸びたが、売上をカバーしきれなかった
- ・イチゴ、リンゴは入荷が少ない影響で相場高となり不振、みかんに需要が偏る結果となった
- ・野菜の相場高を受け、価格が安定しているカット野菜、もやし等、売上が好調だった

### ○ 水産

- ・気温が例年より低い影響で、鍋物材料として甘口たらが好調だった
- ・加熱用生かきは、昨年より2割～3割程安く販売好調、インスタアのバラ商材の動きも良かった
- ・生食用かきやあさりは、入荷が安定しているにもかかわらず、震災の影響で不振だった

### ○ 畜産

- ・震災以降、放射性物質であるセシウム問題の影響で未だ牛肉の売上は不振が続き、輸入牛肉を中心に拡販するが、牛肉全体の売上は低迷した
- ・昨年の鳥インフルエンザの影響もあり、鶏肉全般で昨年比を大きく上回った。特にモモ肉、モモ切身の動きが良かった

### ○ 惣菜

- ・季節商品の「菜の花からし和え」等の調理品が好調だった
- ・1月と同様に受験シーズンに向けて、とんかつ、フライ、カツ関連の商材が好調。夜食としてスナック等も好調だった
- ・野菜の相場高の影響で、生野菜サラダが好調だった

○ 日配・加工食品

- ・TV報道、健康志向の高まりにより「ドリンクヨーグルト」「野菜系飲料」が好調に推移した
- ・野菜の相場高もあり、漬物・冷凍野菜の売上が伸長した
- ・気温が低いことからカップ麺、鍋つゆ、スープ関連、インスタントコーヒー等のホット商材が好調だった
- ・首都直下型地震（M9級）の確率が4年以内に発生の報道を受け、ミネラルウォーター、缶詰、レンジ米飯が好調だった

○ 「節分」について

- ・恵方巻の需要は年々大きくなり、寿司部門で年間売上が一番高い催事となった。予約巻き寿司も好調で当日分も含め拡販し、海鮮巻、 HALF巻、セット物や高単価商品の品揃えも増加した
- ・節分いわしは曜日周りの悪さもあって、前年実績を下回ったが、恵方巻材料として、寿司ネタセット、いくら、刻みアナゴ等は大きく伸長した。中食、肉食傾向が一段と鮮明となった
- ・節分豆、節分そば等は、前年並みの動きであった。

○ 「バレンタイン」について

- ・バレンタイン専用チョコは動きが良かったが、デコチョコ需要の板チョコ類や製菓材料は不振だった
- ・単価は昨年より低く、デコ需要も昨年より縮小し、手作り需要の低年齢化が進んだ

○ 「風邪、インフルエンザ対策商品」について

- ・1月に引き続き、風邪やインフルエンザの予防、花粉症、ダイエット効果があるとTVで取り上げられて、ヨーグルトが好調だった
- ・花粉飛散量は少ないものの、インフルエンザの流行によりマスクが好調だった
- ・対策商品として、のど飴、マスク、手洗い石鹸、ハンドソープ、手洗い消毒液、冷却ジェル等が好調だった

以上